

連隊本部棟の上部構造

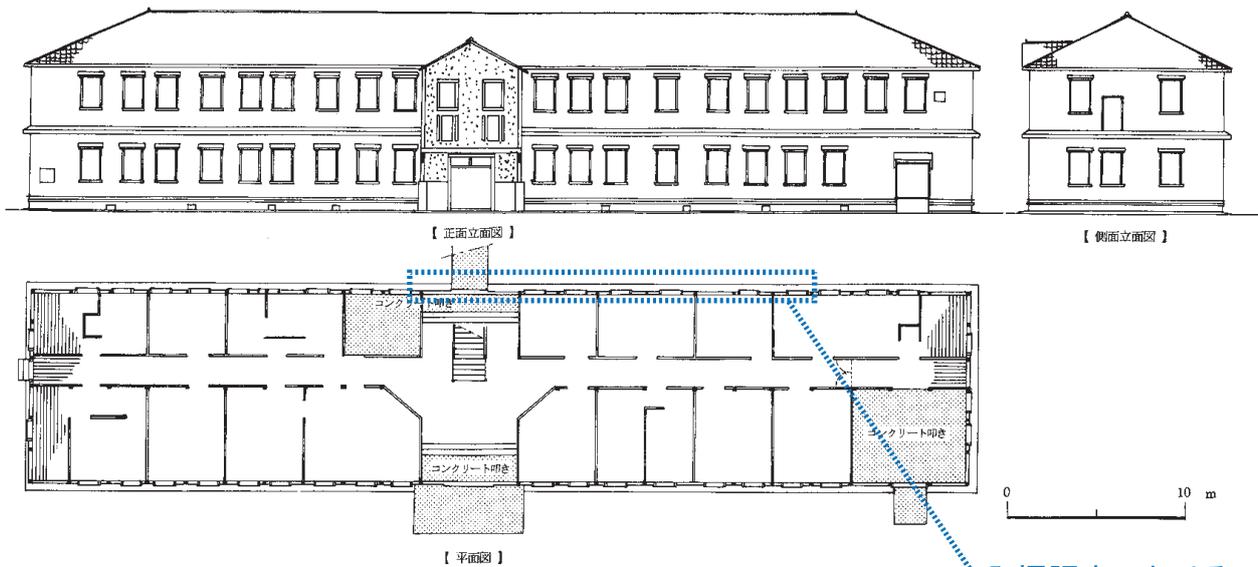


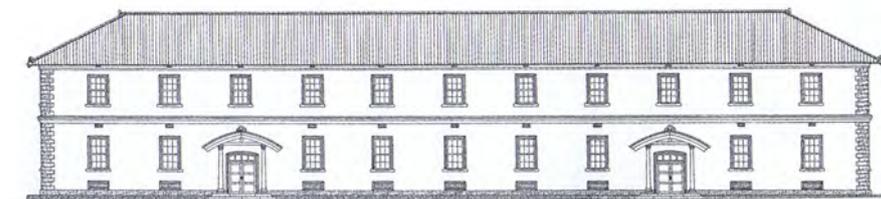
図46 兵舎SB02建物上部構造立体面・1階平面図(撤去前の実測図による)
(兵舎SB02建物=連隊本部棟)

出典：『佐倉城跡発掘調査報告』2004 国立歴史民俗博物館

発掘調査における
検出範囲

連隊本部棟は昭和52年頃まで建物が残っていました。木造下見板張り2階建て、和瓦葺き寄棟造りの屋根を持つ建物です。上の図はその立面図・平面図です。ただし、明治初期の建物ではなく建て替えられたものです。

点線部分が発掘調査における検出範囲です。



明治の兵舎 明治7年にできた白壁、洋瓦葺、コーナーストーン張りの兵舎は総長52.8m、梁行10.8mである。仙台にある第四連隊の同大の兵舎から旧状が伺われる。仏国式のマニュアルによる建物とみられる。



歩兵第四連隊兵舎正面図 (仙台市歴史民俗資料館提供)



兵舎に用いたジェラール瓦 (本館保管) 発掘品 明治初年にフランス人のアルフレッド・ジェラールが横浜で造り始めた洋式瓦。

出典：『佐倉連隊にみる戦争の時代』2006 国立歴史民俗博物館

2 兵舎建物の変化

明治初期の兵舎は、白壁、洋瓦葺、コーナーストーン張りの建物である。佐倉でその建物基礎が発掘された。その旧状を窺わせる遺構が、同大の仙台の第四連隊の兵舎である。歴史資料館に転用されて残っている。佐倉では一九四五年の敗戦時の兵舎は、近年まで一部が残っていたが、建物は和風の下見板張りの外観に変わっている。一八八五年(明治一八)に旅団本部の工事図でも既に和風化がみられる。

明治初期の連隊本部棟は、上の写真のような様相を呈していたと推測されます。今回の発掘調査で出土したジェラール瓦は、この建物の屋根に葺かれていたものと考えられます。